

# 天橋立周辺景観まちづくり計画

(中間案)

# 天橋立周辺景観まちづくり計画（中間案）

## 目 次

はじめに	0-1
<b>第1章 景観まちづくりの現状</b>	
1. 対象区域	1-1
2. 景観の特性	1-1
<b>第2章 景観まちづくりの基本方針</b>	
1. 景観まちづくりに関する課題	2-1
2. 景観まちづくりの目標・基本方針	2-3
3. 景観まちづくりに向けた取組	2-6
4. 景観まちづくりの地区別の取組	2-8
<b>第3章 天橋立周辺景観計画（景観法に基づく景観計画）</b>	
1. 景観計画の区域	3-1
2. 景観計画区域における良好な景観の形成に関する方針	3-5
3. 良好な景観形成のための行為の制限に関する事項	3-8
4. 景観重要建造物及び景観重要樹木の指定の方針	3-22
5. 屋外広告物の表示及び屋外広告物を掲出する 物件の設置に関する行為の制限に関する事項	3-23
6. 景観形成に重要な公共施設の整備に関する事項	3-24

はじめに

---

### 景観まちづくり計画の目的と位置付け

天橋立は古くから日本を代表する景勝地として知られ、白砂青松の地として日本三景の一つに数えられています。天橋立に二分された宮津湾と阿蘇海、その周辺の山並みが織りなす自然美は、その地形の特異性から人々の共感を得て愛され続けてきました。文人墨客により和歌や絵画に表現された情景は、地域を代表する文化、景観として育てられ、現在では、全国各地はもとより世界各地から、四季を通じて多くの観光客が訪れています。

近年、天橋立は、松枯れの被害や台風による倒木など松並木を取り巻く環境に変化が生じ、天橋立自体の様相が変化しつつあります。また、天橋立を取り巻く地域においても、生活スタイルの変化や生業環境の変化、様々な経済活動の展開により、天橋立を取り巻く景観に変化が生じています。

京都府においては「景観は公共的資産」であるとの認識のもと、先人から受け継いだ京都府の美しい景観を保全、育成し、あるいは新たに創造して、次の世代に引き継いでいく「景観」に対する基本認識のもとに、国による景観法の制定などを踏まえ、京都の歴史や多様な地域個性を活かし、環境と文化の共生による地域づくりを進めるため、「京の景観形成推進プラン」（平成17年12月）を策定しました。

この推進プランにおいて、重点施策として府の広域的及び特徴的景観形成の推進のため、景観計画の策定の推進を図ることとしており、その広域的景観形成のモデル地域の一つとして、「日本三景天橋立の周辺地域」を選定しています。

天橋立の周辺地域を取り巻く以上のような状況を踏まえ、歴史や多様な地域個性を活かし、環境と文化の共生による地域づくりを進め、地域の活性化に繋げていくため、地元の住民や関係市町と連携により、「天橋立周辺景観まちづくり計画」を策定することとしました。この計画は観光振興・地域活性化の観点を踏まえ、景観を切り口とした横断的かつ総合的まちづくり推進計画であり、「天橋立周辺地域の景観マスタープラン」として位置づけています。具体的には、景観を活かしたまちづくりの方策を示すとともに、山並みや傘松公園や天橋立ビューランドからの眺望及び天橋立から周辺地域への景観を保全し、併せて幹線道路沿道の景観形成の誘導を図るため、対象区域における建築物の景観形成の基準を取りまとめています。

計画を策定するにあたり、地元関係者や有識者から構成される「天橋立周辺景観まちづくり検討会」を設置し、3カ年に渡り景観まちづくり計画の検討を重ね策定しました。

## 天橋立を核とした景観とは

---

### 〈歴史や文化、人の営みが積み重なった姿〉

- 天橋立とその周辺は、平安時代から歌枕の地として親しまれ、景勝探訪の地として広く認識されてきた。また、天橋立を一望する府中に国府が置かれるなど、古代・中世を通じて政治の中心地でした。
- 近世では城下町が形成され貿易港としても繁栄するなど、丹後地域の中核的都市としての基盤が形成されました。
- 悠久の歴史のなかでその舞台となった社寺や建築物、まち並みなどの歴史的資源が周辺に数多く残存しています。

### 〈時代を超えた精神的な存在〉

- 白砂青松の天橋立と海、周囲の山並みが織りなす自然景観は、雪舟を始めとする古代より多くの文人墨客らによって賞賛され、時代を超えて多くの人々に感動を与えてきました。
- こうした自然景観を含め、重層的に蓄積された歴史や文化によって醸成されてきた天橋立を中心とした景観は、地域に住まう人の情景（原風景）として育まれました。

### 〈住民、さらに国民共有の財産〉

- 地域住民の営みと努力によって育まれた景観は、この地域のアイデンティティというべき存在であり、住民さらには国民共有の価値ある財産として世界遺産にふさわしい価値を有しています。

## なぜ「景観まちづくり」なのか

---

- 価値観の多様化、ふるさと意識の希薄化する現代において、地域のアイデンティティを根底部分で支えるための価値観の共有が重要となってきています。
- 「人々の生活や生業、文化活動のあり様が地域の景観として表象されている」という認識があります。
- 「景観」というキーワードから地域の営みを再点検し、地域の空間的、歴史的背景や文脈を十分に読み解きつつ、先人から受け継いだ美しい景観を保全、育成し、新たに創造して、次の世代に引き継いでいくための、総合的かつ継続的な「景観まちづくり」が必要です。

## 天橋立周辺における「景観まちづくり」

---

- 天橋立とその周辺の景観は、歴史と文化の積み重ねとともに培われてきましたが、戦後復興やその後の高度経済成長期には、利便性・合理性を追求する流れの中、生活スタイルや生業環境の変化により、身近なまちの景観が大きく変化し、里山や農山漁村等の景観が失われつつあります。
- 世界的にも稀有な存在で、地域のアイデンティティというべき天橋立こそが、広域的な景観形成のモデル地域として「景観まちづくり」に取り組んでいくことが必要です。